

令和7年第4回 北海道議会定例会・一般質問 開催状況

開催年月日 令和7年12月3日(水)

質問者 日本共産党 真下 紀子 議員

答弁者 保健福祉部長 古岡 昇

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
四 自殺対策等について (一) 若年層の自殺対策等について 国の自殺統計によりますと、小中高生の自殺が、全国で2024年に過去最多の529人にのぼり、特に10代の女性の自殺が顕著に増えています。知事及び教育長は、このことをどう受け止め、自殺にまで駆り立てる要因をどのように把握・分析し、対策をとっているのか。なぜ減少しないのか、見解を伺います。また、道警察における自殺防止対策の取組について、警察本部長に伺います。 (二) 市販薬によるオーバードーズについて 自殺のリスクが高まる自傷行為や薬物乱用・依存に関する近年の研究で、違法薬物の使用から、麻薬成分のはいった市販薬によるオーバードーズへと変化し、深刻化が指摘されています。道内においてもこうした変化に対応し、専門的な支援と対策をとっていく必要があると考えますが、知事及び教育長に見解を伺います。	(保健福祉部長) 子どもや若者の自殺対策についてでございますが、国の自殺対策白書では、小中高生の自殺者の数が過去最多となり、特に女性の自殺は近年増加傾向が続いていることや、自殺の主な原因は学校や健康、家庭に関する問題であることが報告されております。 こうした中、道では、第4期自殺対策行動計画において、子ども・若者の自殺対策を主要な課題に位置づけ、自殺の発生予防に取り組んでおりますが、自殺者はほぼ横ばいの状況にあり、依然、深刻な課題であると考えています。 道ではこれまで、子どもや若者が相談しやすいSNSなどを活用した相談窓口を設置しておりますほか、市町村や教育委員会等と連携しながら、学校や家庭環境などへの支援体制の構築に取り組んでいるところであり、今後とも、北海道自殺対策連絡会議などにおいて、自殺の原因等に関する本道の傾向をお示しし、有識者からの知見を取り入れながら、実効性のある自殺対策の推進に努めてまいります。 (保健福祉部長) いわゆるオーバードーズについてであります。近年、10代から20代の若年層を中心に、市販薬を大量に服用する行為が社会問題化しており、若者に対する予防啓発や相談・支援体制の確保が重要であります。 このため道では、乱用防止の啓発資材を配布するほか、乱用に苦しむ若者を適切な支援に繋ぐための対応マニュアルを薬局開設者などに配布するとともに、若年者が濫用のおそれのある医薬品を購入しようとする場合には、薬剤師等にオーバードーズを防ぐ役割を担っていただき、原則として1包装単位に限った販売とするなどの協力を依頼しております。 道としては、引き続き、こうした取組により医薬品の適正使用の推進に努めるとともに、依存症が疑われる場合には、精神保健福祉センターや各保健所で相談に対応するほか、必要に応じて、医療機関や自助グループ等につなげていくなどの対応を行ってまいります。